

資源循環論2023講義内容

Resource Circulation 2023 Lecture contents

資源循環論の講義では、一般的な講義に加え、課題制作と発表、グループワーキングでの討議と発表、個人で行った研究発表を行います。

2023年9月からの講義では、2つの *Topics to consider* に絞り、答えを導き出します。

✓ *The first topic to consider:*

人と生態系の健康に配慮し、生物多様性保護に配慮した安心で安全な食品と生活用品が生産されて販売される為には？どうしたら良いのか？

✓ *The second theme to consider:*

安全・安心な食品や日用品を消費者が購入する為の情報や知識をどこで獲得できるのか。また、消費者がより健康的で環境に配慮した商品を選択・購入するよう促すにはどうすればよいのか？消費者の行動変容の動機付けとなるような「社会的メカニズム」をどうすれば導入することはできるのか？

1. 健康・環境面で安心して購入できる食品と生活用品の生産と販売
2. 商品選択における消費者の健康・環境面での意識変化と消費変容を促す仕組み

講義の最終目標

食品・生活用品では有害物質を含まず持続可能な資源フローに基づき食品や生活用品が作られたか否かという点は、大気汚染と気候変動の同時削減に不可欠な視点です。温室効果ガスの削減だけでなく、PM2.5、PM10、NO_x、SO₂、CO等の大気汚染物質との同時削減を行うことで地球規模の温暖化を緩和に近づけることができます。特に化石由来のプラスチック容器包装やごみ袋等が捨てられ砕かれたマイクロプラスチックAMPs (Airborne MicroPlastics) 大気に放出されて大気汚染と海洋汚染を引き起こす深刻な原因になっています。日常使用する便利な生活用品等が影響する問題をどのようにして改善すればいいのか？また、食品や生活用品には、有害な化学物質、無害でも多くの化学物質が使用されています。有害な化学物質の制限、無農薬や低農薬による農業普及、低エネルギー製法、持続可能な資源開発利用、脱化石燃料由来のプラスチック推進等、環境負荷を低減させる手法が多く採り入れられるようになりました。このような食品・生活用品に関する情報や知識をどのようにして獲得し、生産者と生活者を結びつける製品の可視化を通じて、消費者の意識変化を促し、行動変容を促す社会的な仕組みを考え、解明していくことが本講義の目標です。